

**水域の生活環境動植物の被害防止及び
水質汚濁に係る農薬登録基準の設定を不要とする農薬について
(セダキサン)**

下記農薬のセダキサンは、シスートランス異性体を有するピラゾールカルボキサミド系殺菌剤であり、その作用機構は菌体中のミトコンドリアにおける電子伝達系の複合体Ⅱ（コハク酸脱水素酵素）を阻害することにより菌の呼吸機能に影響を及ぼし、菌の発芽管伸長阻害、孢子発芽阻害、菌糸生育阻害を引き起こす（FRAC：7（C2）^{※1}）。

本邦では未登録である。

製剤は水和剤が、適用農作物等はてんさいとして、登録申請されている。

本剤は、その使用方法が乾燥種子に対する塗沫処理に限定され、単位面積当たりの有効成分投下量が約 0.5 mL/ha（事務局算出値[※]）と極めて少ないことから、塗沫処理を施した種子を圃場に直播する場合であっても、当該農薬の成分物質等が河川等の水系に流出する量は極めて少ないと考えられる。

このため、巻末参考1「水産動植物の被害のおそれが極めて少ないと認められる農薬の取扱いについて」（平成24年2月24日中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会（第29回）修正了承）及び参考2「水質汚濁に係る水の利用が原因となって人畜に被害を生じるおそれが極めて少ないと認められる農薬の取扱いについて」（令和2年5月18日中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会（第75回）修正了承）に基づき、「当該農薬の剤型、使用方法等からみて、当該農薬の成分物質等がその使用に係る農地に混入し、又は河川等の水系に流出するおそれが極めて少ないと認められる場合」に該当するものとして、水域の生活環境動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録基準の設定を行う必要がない農薬として整理したい。なお、今後、水系に流出するおそれのある使用方法に変更登録申請された場合には、水域の生活環境動植物の被害防止及び水質汚濁に係る農薬登録基準の設定の必要性について検討することとする。

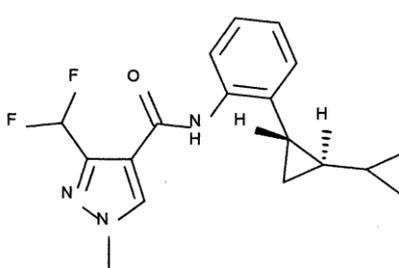
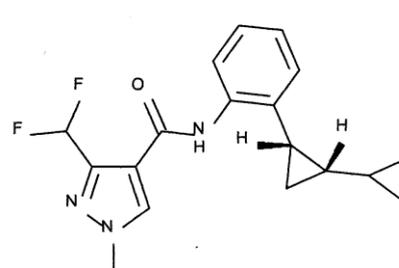
※1：参照：<https://www.icpa.or.jp/labo/mechanism.html>
<https://www.frac.info/>

記

農薬名	使用目的	使用方法の概要
セダキサン	殺菌剤	乾燥種子1ユニット（約10万粒）当たり 1.45%水和剤33mLを塗沫処理

※2 単位面積当たりの播種粒数を10万粒/haとして算出。

1. 物質概要

化学名 (IUPAC)	<p><i>2trans</i> 体：2' - [(1<i>RS</i>, 2<i>SR</i>) - 1, 1' - ビシクロプロパン-2-イル] - 3 - (ジフルオロメチル) - 1-メチルピラゾール-4-カルボキシアニリド</p> <p><i>2cis</i> 体：2' - [(1<i>RS</i>, 2<i>RS</i>) - 1, 1' - ビシクロプロパン-2-イル] - 3 - (ジフルオロメチル) - 1-メチルピラゾール-4-カルボキシアニリド</p> <p>の混合物</p>				
分子式	$C_{18}H_{19}F_2N_3O$	分子量	331.4	CAS 登録番号 (CAS RN [®])	874967-67-6 (混合物) 599197-38-3 (<i>trans</i>) 599194-51-1 (<i>cis</i>)
構造式	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(<i>trans</i> 体)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(<i>cis</i> 体)</p> </div> </div>				

2. 各種物性

外観・臭気	白色粉末、無臭 (25°C)	土壌吸着係数	$K_{p^{ads}OC} = 260-670$ $K_{p^{ads}OC} = 380-410 (25^\circ C)$
融点	121.4°C	オクタノール /水分配係数	$\log Pow = 3.3 (25^\circ C)$
沸点	>270°C	生物濃縮性	—
蒸気圧	$6.5 \times 10^{-8} \text{ Pa} (20^\circ C)$ $1.7 \times 10^{-7} \text{ Pa} (25^\circ C)$	密度	$1.2 \text{ g/cm}^3 (26^\circ C)$
加水分解性	半減期 1年以上 (25°C ; pH4、5、7、9)	水溶解度	$1.4 \times 10^4 \mu\text{g/L} (25^\circ C)$

水中光分解性	半減期 42 日、52 日、71 日（北緯 30°、40°、50° 夏季自然太陽光） （東京春季太陽光換算 172 日） （滅菌緩衝液、pH7、25°C、人工キセノンアーク、300-400nm） 16.3 日、16.5 日、17.1 日（北緯 30°、40°、50° 夏季自然太陽光） （東京春季太陽光換算 48 日） （滅菌自然水、pH7.37、25°C、人工キセノンアーク、300-400nm）
pKa	解離せず